

# バーナード・ウィリアムズと厚い概念

## ～厚い概念に基づいた道德哲学の転回～

高原亮 (Ryo Takahara)

慶應義塾大学大学院 文学研究科

### 1. 発表の背景と目的

20世紀にイギリスで活躍した道德哲学者バーナード・ウィリアムズ(1929-2003)は、当時の道德哲学に対して広範かつ徹底的な異論を唱えたことで知られている。彼の異論の矛先は、功利主義やカント主義などの近現代的な道德理論や、義務や運などの道德に関わる諸概念など、多岐にわたっている。そのため、彼のテキストから私たちが真っ先に受け取るイメージは、伝統的な道德哲学にかような異論を唱え続ける「批判者としてのウィリアムズ像」であろう。従来の多くのウィリアムズ研究においては、このようなイメージに基づいて、ウィリアムズの難渋なテキストからその異論の内実を詳らかにすることが目指されてきたと言える。

しかしながら、2020年頃からのウィリアムズ研究においては、彼の道德哲学から積極的・建設的な主張を抽出することを目的とした研究が盛んになっている (see, Szigeti & Talbert (2022))。発表者の理解に基づく、そのような研究において描かれるウィリアムズのイメージは、従来のそれとは異なる道德哲学の枠組みを新たに構築しようとする、いわば「開拓者としてのウィリアムズ像」である。このような研究は、これまで軽視されてきた彼の哲学の一側面を浮き彫りにするとともに、単なるウィリアムズの理解や解釈を超えて、道德哲学の探求全般にも新たな視座を与えるものであると言える。

本発表の目的は、このような「開拓者としてのウィリアムズ像」に基づいて、彼の「厚い概念(thick concept)」に関する主張から積極的・建設的な側面を抽出することである。その際に、本発表では、ウィリアムズの厚い概念に関する主張を、ムーア流の——あるいはソクラテス流の——「善とは何か？」を道德哲学の根本的な問いと見なす伝統と対比させる。この作業を踏まえて、本発表は、道德哲学の探求の出発点、すなわち「道德哲学が問うべき問い」とは何であるのかということに関する、一つの主張を構成する。

### 2. 発表の内容

ウィリアムズは、主著 *Ethics and the Limits of Philosophy* (邦題『生き方について哲学は何が言えるか』) の第7章・第8章において、「厚い概念」と呼ばれる種類の概念を提示した。彼によれば、「善」や「正」といった薄い概念(thin concept)が単に評価的な概念であるのに対し、「勇敢さ」や「残忍さ」のような厚い概念は、記述的な側面と評価的な側面を併せ持つものである。厚い概念は、ウィリアムズやマクダウェル、パトナムといった倫理学者による深化を経て、当時のメタ倫理学において強い前提となっていた「事実と価値の二分法」に疑いを向ける契機を生みだした。さらには、道德的価

値に関する実在論・反実在論の論争においては認知主義の新たな可能性を示唆するものとして受け入れられてきた。

上述したように、本発表の目的は、ウィリアムズの厚い概念に関する主張から積極的・建設的な側面を導き出すことにある。その際に、本発表では、事実と価値の二分法やメタ倫理学における実在論争を超えて、ウィリアムズの厚い概念の主張は道德哲学の探求法に関する一つの主張として理解可能であると述べる。そこにおいて、彼が厚い概念をめぐって行う主張は、G・E・ムーア以降に支配的であり続けた「薄い概念を探求の基礎とする倫理学」から「厚い概念を探求の基礎とする倫理学」への転回を促すものである。

よく知られているように、ムーアが道德哲学に対して与えた最大の貢献は、「善とは何か？」を中心的な問いとするメタ倫理学の領域を創始したことにある。その後の 20 世紀に行われたメタ倫理学上の論争は、概ねこの問いを中心に展開されてきたと言える。

本発表では、このような「薄い概念を探求の基礎とする倫理学」に対するオルタナティブとして、ウィリアムズの厚い概念に関する主張を理解することを試みる。この理解に立つならば、厚い概念は単なる批判や分析上の道具ではなく、道德哲学の新たな出発点を形づくる基礎とみなすことができる。すなわち、「批判者」として既存の薄い概念に基づく諸理論を批判したウィリアムズは、同時に「開拓者」として、厚い概念に依拠する新たな道德哲学の可能性を提示していたのである。

本発表は、このようにしてウィリアムズの積極的・建設的意義を明らかにすることで、ウィリアムズの再評価に資するとともに、道德哲学が問うべき根本的な問題について一つの視座を提示する。

#### 【参考】

・ Williams, Bernard. (1985/2006). *Ethics and limits of the philosophy*, Routledge Classics. (邦訳あり：バーナード・ウィリアムズ，(訳) 森際康友，下川潔『生き方について哲学は何が言えるか』，筑摩書房，2020.)

・ Szigeti, A. & Talbert, M. eds (2022) *Morality and Agency: themes from Bernard Williams*. First Edition, Oxford University Press.